

保護者 様

いわき市立大野第二小学校長 千葉 英一

平成30年度全国学力・学習状況調査の調査結果と今後の取り組みについて

秋冷の候、保護者の皆様には日ごろより本校教育活動に深いご理解と多大なるご協力をいただいておりますこと、誠にありがとうございます。厚く感謝申し上げます。

さて、本年度実施しました現6年生の全国学力・学習状況調査につきまして、「学校と家庭・地域が一体となって、子ども一人一人の学力を高める」という目的をふまえ、保護者の皆様に、調査結果と今後の取り組みについてお知らせいたします。調査結果から測定できるのは、あくまで学力の特定の一部分であります。本校の子どもたちの学力の状況をとらえ今後の指導に生かすための重要な資料でもあります。

そこで、本校におきましては、調査結果とともにその分析結果や、それらをふまえた改善策を示すことにより、家庭・地域と一体化した取り組みを進めていきたいと考えておりますので、ご理解・ご協力をお願いします。

1 学力調査の結果から

※ 平均値よりも5ポイント以上上回る場合は「上回る」、2～5ポイント程度上回る場合は「やや上回る」、

平均値と-2～2程度の差の場合は「ほぼ同じ」平均値から-2以下の場合は「下回る」と表記しています。

「大きく」が入る場合には10ポイント以上の差があります。太字表記の領域は優れているところ、下線部分は努力が必要なところです。

<国語科>

※ 本校の国語科の結果

国語A 全国平均を上回る
領域 話すこと・聞くこと (大きく下回る)
書くこと (大きく上回る)
読むこと (大きく上回る)
伝統的な言語文化 (上回る)

国語B 全国平均をやや上回る
領域 話すこと・聞くこと (下回る)
書くこと (大きく上回る)
読むこと (上回る)

◇よかったところ

- ◎ 自分の想像したことを物語に表現するために、文章全体の構成を考えること
- ◎ 目的や意図に応じて、文章全体の構成の効果を考えること
- ◆改善が必要なところ
 - ・ 話し合いの参加者として質問の意図を捉えること
 - ・ 話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめること

<算数科>

※ 本校の算数科の結果

算数A 全国平均を上回る
領域 数と計算 (上回る)
量と測定 (やや上回る)
図形 (上回る)
数量関係 (上回る)

算数B 全国平均を上回る
領域 数と計算 (上回る)
量と測定 (上回る)
図形 (下回る)
数量関係 (上回る)

◇よかったところ

- ◎ 除法で表すことができる2つの数量の関係を理解していること
- ◎ 角の大きさを理解していること
- ◆改善が必要なところ
 - ・ 円周率の意味について理解すること
 - ・ 折れ線グラフから変化の特徴を読み取ること
 - ・ 棒グラフと帯グラフから読み取ることができることを適切に判断すること
 - ・ 示された考えを解釈し、条件に合うものを判断すること

今後の国語科の指導に当たって

学校経営・運営ビジョンより

- ①めあてとまとめの整合性
 - ・ 毎時間、めあてとまとめをノートに書く
- ②課題解決のための話し合い
 - ・ 相手の意見について考えたり、自分の考えを見つめ直す時間と場を設定する
 - ・ 自分の考えを書く機会を設定する
 - ・ 自他の考えを比較・検討し、よりよい考えにするための目的を持った話し合いにする
- ③その時間の学びの振り返り
 - ・ 授業の学びの中で、わかったことや気付いたことをノートに書く

◆家庭での学習について

- ・ 新聞を読んだりニュースを聞いたりする。
- ・ 読書をする。
- ・ 漢字の練習と音読をする。
- ・ 国語・漢字辞典を活用する。
- ・ 自分でテーマを決めて自主学習をする。

今後の算数科の指導に当たって

学校経営・運営ビジョンより

- ①めあてとまとめの整合性
 - ・ 毎時間、めあてとまとめをノートに書く
- ②課題解決のための話し合い
 - ・ 既習事項を振り返る時間と場の設定
 - ・ 図や表、グラフ、数直線などを活用して、自分たちの考えを伝え合う時間と場の設定
- ③その時間の学びの振り返り
 - ・ 定着を図るための問題を解く
 - ・ 授業の学びの中で、わかったことや気付いたことをノートに書く

◆家庭での学習について

- ・ 整数、小数、分数の四則計算を繰り返し練習するとともに、図形の作図なども積極的に取り組むようにする。
- ・ 図や表、グラフ、数直線などを使って課題を解決できるようにする。
- ・ 自分でテーマを決めて自主学習をする。

<理科>

❖ 本校の理科の結果

理科	主に知識	全国平均を下回る
	主に活用	全国平均をやや上回る
区分	A区分	<u>物質(下回る)</u> <u>エネルギー(大きく下回る)</u>
	B区分	生命(ほぼ同じ) <u>地球(下回る)</u>

◇よかったところ

- ◎ 動物のからだと人のからだについて考察する際に、問題に対応した視点で分析できること
- ◎ 上流の天気と下流の水位の関係から、その関係性について考察すること
- ◎ 2つの異なる方法の実験結果を分析して、考察すること
- ◆改善が必要なところ
 - ・ 土地の浸食について、予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想できること
 - ・ 電流の流れ方について、予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想できること
 - ・ 実験結果から言えることだけに言及した内容に改善し、その内容を記述できること

今後の理科の指導に当たって

学校経営・運営ビジョンより

- ①めあてとまとめの整合性
 - ・ 毎時間、めあてとまとめをノートに書く
- ②課題解決のための話し合い
 - ・ 観察や実験の予想を立てる時間と場の設定
 - ・ 観察方法や実験方法について自分なりの考えをもつ時間と場の設定
- ③その時間の学びの振り返り
 - ・ 実験結果を考察し文章でまとめる
 - ・ 授業の学びの中で、わかったことや気付いたことをノートに書く

◆家庭での学習について

- ・ 身の回りの自然や事象に関心が高まるように、課題を提示し、主体的に解決できるようにする。
- ・ 学んだことが、生活の中で活かせるように、もの作りなどに挑戦する。
- ・ 自分でテーマを決めて自主学習をする。

2 学習状況調査(意識や生活の状況)から

◎ 望ましい傾向…100%当てはまると回答された項目

- ア 学校の決まりを守っている。
- イ いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う。
- ウ 朝食を毎日食べている。
- エ 毎日、同じくらいの時刻に寝て、同じくらいの時刻に起きている。
- オ 宿題は忘れずにやっている。
- カ 理科の授業の内容がよくわかる。
- ク 自然の中で遊んだり、観察したりする。

□ 課題となること…25~50%当てはまらないと回答された項目

- ア 家で、学校の授業の予習・復習をしている。
- イ 今住んでいる地域の行事に参加している。
- ウ 新聞を読んでいる。
- エ 理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える。
- オ 理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。

◆◆◆ 最後に ◆◆◆

今回の調査で課題となった点については、日々の授業の見直しを図ります。

- ① 国語科については、「話すこと・聞くこと」の領域において、昨年度大きく下回っていた結果が今回の結果では全国平均に迫る傾向が見られました。今後も引き続き、話し合い活動を多く取り入れた授業での指導を重視していきます。
- ② 算数科については、「図形」の領域において、全国平均を下回る結果となりました。身の回りにある形に関心を持ったり、図形を構成する要素や性質に着目して、面積や体積の求め方を見いだせるような授業での指導を重視していきます。
- ③ 理科については、実験の結果を予測したり、実験の結果から考察し、自分の考えをまとめる学習活動をきちんと取り入れた授業での指導を重視していきます。
- ④ 子どもたちの学習意欲向上のために、授業と家庭学習との関係を考慮して指導にあたります。また、日々うるおいのある学校生活を送れるような学校行事の配置も工夫していきます。
- ⑤ 本校のモットーは、

子どもは顧客
授業は商品
教師は経営者
報酬は笑顔

であります。

これからも、一人ひとりの子どもたちを大切に、一日一度でも授業中に笑顔や「わかった、できた」という表情が見られるように、全職員で全力で取り組みます。保護者、地域の皆様方、これからもよろしくお願いたします。

